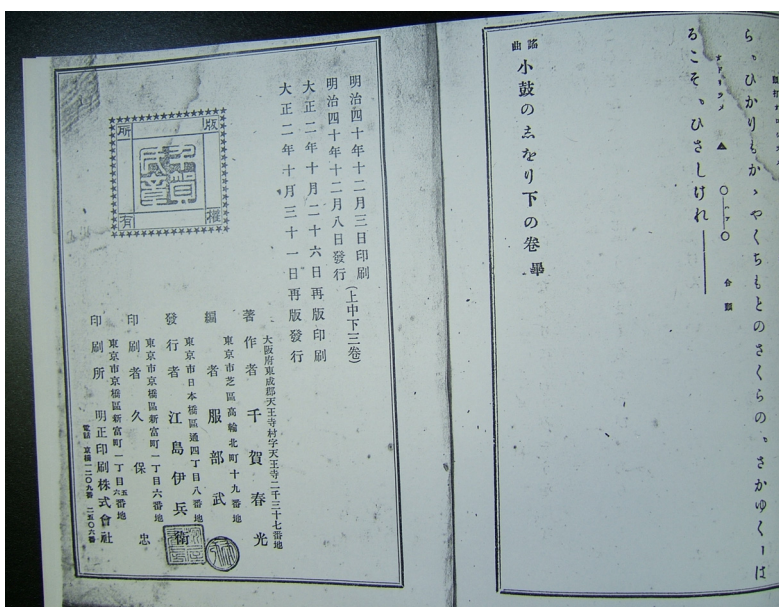
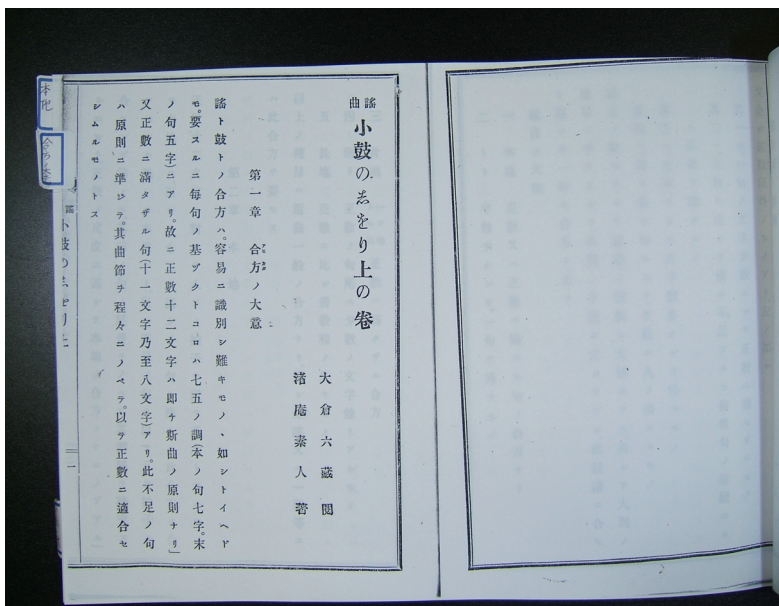


千賀春光 『謡曲 小鼓のしをり』

素人の著作。小鼓の譜を、「地」と「手」に分類、実際の謡にあわせて示す。「鼓ノ拍子ハ、謡曲ノ測量機デアル」と緒言にあるとおり、目的は、鼓の紹介を通じて謡の拍子の規矩となすことである。謡が、升目や横線にのせずに示されているため、「三ツ地」と下句の対応も実際の対応に合っているのが特徴。「ノル三ツ地」の方には、六拍目にコミを示す「ツ」をいれて間をとり、通常の「三ツ地」との差を表現する。中巻までは手の図示。下巻と増補之巻は、実際の曲の譜を掲載。



標題 内題…謡曲 小鼓のしをり

標題紙…

奥附…

その他…謡曲 小鼓のしをり(目次・緒

言・巻末)、謡曲 小鼓の乗(題

簽、小鼓のしをり(はしがき)

著者 奥附…千賀春光

その他の場所…渚庵素人(巻頭)

出版 版次…第二版

出版地…東京

出版社…江島伊兵衛

出版年…大正2 (1913)

その他の場所…再版序 大正2 (1913)

形態 冊数…四冊 頁数…

寸法…

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…複写

備考 服部武一編(奥附・再版序)。明治四〇(一

九〇七)年江南散人序。明治二六(一八

九三)年渚庵素人緒言。大倉六蔵校閲(巻

頭)。初版(上中下三巻)は明治四〇(一

九〇七)年(奥附)。再版時に増補の巻を

加え全四巻となる。